

助け合って 生きていくんだ



■周りの人に生かされている という実感

千葉さんはもともとあまのじやくで、自己中心的な考え方をするタイプだったそうです。それが山下さんにお会い、愛川町にお会い、農業を続けるうちに、変わってきました。

「正直、愛川町にきても、それまでの自分だったら、経営的にも畑的にも今のような状況にはなっていないと思います。それまでは、自分で生きているんだって勝手に思っていました。でも、本当は自分は周りの人たちに生かされているんですよね。サラリーマンの時はそういうことはまったく感じていなかったので、それだけでも自分の中では、人生のひとつの成功だなと思っています」

■農業の楽しさを伝えたい

千葉さんは今後のビジョンのひとつに、生産者を増やすことを掲げています。来年からは研修生を受け入れ、いざなは愛川町で新しい就農希望者が農業をやれる環境を作っていくと考えています。「それが助けていただいた方たちへの恩返しだと思う」と千葉さんは話します。

「農業を選んでから本当に楽しいことばかりです。なので、新しい人をどんどん増やしたいいちばんの理由は、僕が勧めたいからです。だって、楽しいから（笑）。農作業はつらいですし、経営的にも最初のうちは厳しいです。だからどこかで楽しむ気持ちがないとやっていけないんですけど、楽しんでしまえばこれだけ楽しい仕事はないんですね。もう、とめどなく楽しいです！」

農業は楽しい…農園の名前「NO-RA～農樂～」には、そんな千葉さん夫婦の思いが込められています。めいいっぱいたくさんの人に助けてもらいながら、そのことへの感謝の気持ちを忘れず、とにかく楽しんで、心を込めて、おいしい野菜を作る…そんなふうにして作られた野菜が、おいしくないわけがありません。千葉さん夫婦の農との日々は、今まで気づいていなかった“恵み”に気づく日々なのかもしれません。



「農家は家族の時間がが多くとれますよ」と奥さん

ところとして甘く、独特の香りと風味のある蜂蜜、誰でも一度は食べたことがありますよね。けれど、日本で現在行なわれている養蜂では、2種類のみつばちが飼育されていることはご存知でしたか。ひとつは西洋みつばち。明治時代に輸入され、飼育がしやすく、採取できる蜂蜜の量の多さから、養蜂の主流となっているみつばちです。

そしてもうひとつが、日本みつばち。日本みつばちは日本に古来から生息する在来種で、日本の風土に合った性質をもっています。自力で越冬ができること、病気に強く、西洋みつばちの飼育では必ず使われる抗生物質や殺虫剤を使用せずに済むこと、さまざま花の蜜を集めるため、百花蜜と呼ばれる複雑な味わいの蜜が採取できることなど、たくさんのメリットがあります。しかし、採蜜量が少なく商売には向きで飼育が難しいため、近年は西洋みつばちが養蜂の主流となっています。



INTERVIEW2

本物を知ってもらいたい! 日本みつばちに賭ける情熱

日本みつばち養蜂なかがわ

相模原市緑区（旧藤野町）

中川重喜さん



まるで自分の子どものように日本みつばちをかわいがり、貴重な蜂蜜を採取している日本みつばち養蜂家の中川重喜さん。

昨年、胆管ガンが見つかりましたが、蜂蜜やプロポリスを毎日食べるようになって医者も驚くほどの回復を見せ、今も蜂蜜の商品化や養蜂の規模拡大に奮闘しています。

本物にこだわる中川さんの養蜂への思い、日本みつばちの魅力についてお聞きしました。

■きっかけはテレビだった!?

日本みつばちの養蜂に、情熱を注いでいる人がいます。相模原市緑区（旧藤野町）に住む中川重喜さんです。昨年から、口コミの販売に加えて、地元のイベントやお店でも販売するようになりました。品質が高く、貴重な日本みつばちの蜂蜜ということで、地元の旧藤野町では、ひそかな話題となっています。

中川さんのお宅は相模湖を一望できる気もちの良い高台にあります。巣箱は何ヶ所かに分けて設置しているそうですが、自宅のお庭にもたくさんの中川さんが考案したという三角屋根の巣箱は、見た目にも風流でかわいらしく、知らなければ養蜂をやっていとは気づかないかもしれません。もともと生き物が好きだったという中川さん。漠然とみつばちを飼ってみたいなあと思っていたそうですが、ある日、信州みつばちの会の会長、富永さんがテレビに出演しているのを見て、テレビ局に問い合わせて連絡先を聞き、訪ねていったのだそうです。

それから4年ほど、仕事の合間に何度も通って話を聞き、作業を手伝い、日本みつばちの養蜂を学びました。

「趣味と実用を兼ねて、第二のビジネスとしてやりたいっていうよこしまなところがあつたんだけど、やってみたらとてもデリケートで難しい。多少蜜は取れても、そのあとに蜂が減ったりね。最初に飼ったやつは秋になつたら蜂が（巣箱から）出てこなくなつた。2回目も全部いなくなつた。去年も17箱ダメになつてるんですよ。でも私は成功するまでやろうと思ったから、また今年、恵那と静岡の仲間から分けてもらつた。それでやつと風が吹いてね。今、9つ巣箱があつて元氣ですよ」

■今も試行錯誤を重ねている

”中川流養蜂”

たとえば針金の組み方を工夫して巣が落ちないようにしたり、蟻が下から登つてこないよう、空き缶を切つたものを逆さにして足にはめ、蟻返しにしたり。パツとみるとかわいらしい三角屋根も、日が当たらないように少し大きめに作るなど、失敗を重ねて、試行錯誤の末に行き着いたやり方なのだそうです。

「100回聞いても実際にやってみると知らないことや聞いたことないことがたくさん起ります。」と中川さん。その都度改良を重ねて”中川流養蜂”を確立してきました。

「蜂蜜を探るのはある意味人間のエゴだと思うけれど、巣箱がひとつふたつみつと増えていく、あの時の感動はすごいものがありますよ。みつばちは本当に一生懸命で、勤勉ですね。ものすごく奥が深いんです」



↑巣箱の中

今ある9つの巣箱が無事に春まで生きると、3月頃から女王蜂の産卵が始まります。1日に700から1500の卵を産みますが、その中でも新しい女王蜂になる卵は、3日にひとつずつ、7~10ほど生むそうです。それが順番に生まれて新しい女王蜂（長女）が誕生します。新しい女王蜂が生まれる前に、元々の女王蜂（親）は、1箱に3万匹いると言われている働き蜂のうち、半分を連れて巣を出ます。その3日後にまた新しい女王蜂（次女）が生まれると、その前に生まれた新しい女王蜂（長女）は、またその半分を連れて巣を出ます。これを分蜂といいます。この分蜂がうまくいき、新しい巣箱に定着させることに成功すると、ひとつだった巣箱がどんどん増えていくという仕組みです。といっても、次から次へと分蜂させると元の巣が弱ってしまうので、3つぐらいに分蜂させるのが一般的だそうです。ひとつの巣に2匹の女王蜂は存在できません。分蜂は天気のいい日に行なわれますが、天気が悪い日が続くと新しい女王蜂は噛み殺されてしまします。



中川さんの三角屋根の巣箱

自然豊かな高台に巣箱を設置



←自宅から少し登った畑にある基地には、ミツバチのエサになるようにヒコスモスが植えてありました。いずれは一面ヒコスモス畑にして、興味のある人たちに見学にきてもらいたいのだとか。

とにかく繊細でいつ何が起きるかわからない、これが日本みつばちの養蜂の難しさでもあり、面白さでもあります。

■中川さんの蜂蜜は 100%ピュアな蜂蜜

中川さんは養蜂をする環境にもこだわっています。中川さんの自宅周辺は田んぼや果樹園がありません。それがいい、と中川さんは言います。「田んぼや果樹園はしそっちゅう農薬を撒きますよね。その花の蜜を吸ったら、絶対に農薬も混じってしまう。でもこのへんに生えているのは梅やびわや栗ぐらいで、消毒なんかしていない。だからそういう要らんもんが蜜に入る心配がないんです」つまり、中川さんの作る蜂蜜は、人工的な混ざり物がまったくない純粋な蜂蜜なのです。中川さんは「本物を知ってほしい」と何度も口にしました。それはスーパーで出回っている蜂蜜の多くが、抗生素質を飲まされた西洋みつばちが砂糖水をエサにして作った蜂蜜で、本来の蜂蜜のおいしさもパワーもないからだそうです。本来の蜂蜜は、殺菌力が強く、免疫力を高める効果があると言われています。もちろん風味も違うし、味も濃厚でおいしいのです。

雨風をしのげ、夏場でも涼しい→
木陰の下に巣箱はありました

■ガンになって知った蜂蜜の力
その効果は、中川さん自身が身をもって体感しています。じつは昨年末、中川さんは胆管ガンが見つかり、1ヶ月半も入院しました。お医者さんには「半年持てばいい」と言われた末期がんだったそうです。それまでは「高い蜜だからもったいないくて自分ではあんまり食べてなかった（笑）」という中川さんは、それを機に毎日の蜂蜜とローヤルゼリー、プロポリスを欠かさないようにになりました。

するとガンマGTPの数値が500から70という平均値まで下がり、身体も疲れにくくなりました。減っていた体重も自分のベスト体重まで戻ったそうです。今でも2週間に1度抗がん剤を打っていますが、そんなことは言われなければわからないほど、とても元気で健康そうに見えます。

「医者も不思議がっていますよ。蜂蜜を1kg 1万円で販売していて、高いなあと思う人もいるだろうけれど、それは3ヶ月ぐらいはおいしく食べられる量なんです。1ヶ月3000円で体が健康になるんだったら、こんなに安いものはないですよ。そういう真剣に作った本物の蜂蜜を、私は提供したいと思っているんです」

そして元気の秘訣は、養蜂を成功させるまで病気に負けるわけにはいかないという強い思いによるところも大きいそうです。

「ここで死んでたまるかっていう気持ちもあるし、毎日、自分のかわいがっている生き物を見て、明日はこうなるかな、来月は分蜂が始まるから蜜が採れるなっていうサイクルを考えて、ああしようこうしようって改善していくそういう喜びがあるから元気なのかもしれないですよ。今こうして元気のはいろんな意味でみつばちのおかげですね」。

